

ひがしひろしま 郷土史研究会ニュース

No.618

2026年2月

1月例会報告

今年初の例会は1月24日(土)、市民協働センターで開かれ20人が参加した。

冒頭、赤木会長が衆議院の解散や国際情勢の変化によって波乱続きの社会の現状に触れ、「国際政治は遙か遠いところにあるものだと認識しがちだが、一人ひとりが思いを持って目と頭で捉えていかなければ変わっていかない」と呼びかけた。

続いて、船越雄治氏が「東広島の銅像」と題して例会発表を行った。

船越氏は石造物研究会の主幹であり、石造物を訪ねるうちに銅像にも興味を持ち、調査を開始したとのこと。日本の偉人や賢人・酒造関係者をはじめとする郷土の偉人や賢人、芸術作品、動物など、市内にある48体の銅像を調査した記録を、写真を交えて紹介した。

この調査を通して、名前や功績を初めて知る偉人や賢人が約20人いたとのこと。船越氏は「調査を通して改めて郷土の歴史の一端を知ることができた。市内に未調査の銅像があれば知らせてほしい」として発表を締めくくった。

続いての連絡コーナーでは、福村副会長兼実行委員長より第40回東広島の史跡・文化財を見て歩く会の準備について報告があり、今後の協力を会員に呼びかけた。また、同じく福村副会長より去る1月9日に高屋町の七社神社や平賀氏墓地、仙石庭園で開催された、新春の会についての報告があった。國松事務局長は、当会が東広島熟年大学の講師を務めるにあたり、各会員に協力を呼び掛けた。

2月28日には、当会の悪化する財政の改善に向け検討する組織財政検討委員会が開催される。福村副会長はこの会議の重要性を訴え、会員に多くの出席を促して例会を締めくくった。

2月例会のご案内

日時 2月28日(土) 13:30～

場所 東西条地域センター

発表 絵馬に見る日清・日露戦争

今田幸博氏

令和8年度郷土史研究会新春登山及び新年会 福村 博士

今年の新春登山は昨年の高屋町の白鳥神社に引き続き、高屋町堀にある県史跡平賀氏墓地と墓地の西方に位置する、七社(ななやしろ)神社になりました。

当初は同じく高屋町高屋東にある岩谷観音堂を考えていましたが、倒木により見るも無残な状況になっていた為に、急遽変更し七社神社になりました。

1月9日金曜日の9時過ぎに高屋町高屋堀の仙石庭園の駐車場に19名が集合しました。

参加者(敬称略) 赤木会長、今田、蔵楽、國松、船越、吉田、大森、國永、堀内、寺田、宝木、西本、進藤、梶津、吉村、川手、斎藤、神本、福村

その日は前年の雪と違い素晴らしい晴天に恵まれて幸先の良いスタートが切れました。今回は船越さんの先導で出発、仙石庭園のパーベキュー施設の横を通り最初の七社神社へ向かいました。道路からすぐに100段を超えるような急な石段の参道を登り神社へ到着、全員でお参りました。

神社は平賀氏との関係が深く、頭崎城(かしらさきじょう)が落城後にこの神社で小早川隆景と平賀氏18代の広相(ひろすけ)が義兄弟となりその後毛利氏の傘下になったとの事。

神社のご祭神は天照大神(あまてらすおおみかみ)、天児屋根命(あめのこやねのみこと)、上筒之男命(うわつつのおのみこと)、丹生都比売神(にふつひめのみかみ)、市杵島比売命(いちきしまひめのみこと)、蟻通神(ありとおしのかみ)、宇迦之魂神(うかのみたまのかみ)の七神を祀る明神社(みょうじんしゃ)となっている。

この神社の特色は、江戸時代に36歌仙の肖像画が奉納されていることや舞殿で拍手を打つと天井で響く音響効果がある特殊な構造です。

舞殿には3枚の絵馬がかかっている、今田副会長より「西南戦争の図」や「芝居絵」「鯉の図」についての解説を聞きました。

境内には立派なアベマキのご神木の大きな木があります。

このアベマキの樹皮は、戦時中は輸入できなかったコルクの代用にされたようです。

次は神社から数百メートルの近くにある県史跡である平賀氏の墓地へ向かいました。そこで吉田泰義さんから平賀家の系図を詳しく説明し

ていただきました。平賀氏は藤原姓で、出羽の国（秋田県）平鹿郡（ひらかぐん）を名字の地とし、12世紀終わり頃（鎌倉初期）から安芸国高屋保を領し、本格的に移住したのは9代貞宗の時からである。その後安芸の国の国人として勢力を強めていった。

墓地には多くの宝篋印塔（ほうきょういんとう）や五輪塔（ごりんとう）などが有るが、この中で齋主が分かるのは「真岳」の法名を刻んだ平賀弘保（15代）と「天巖」の法名を刻んだ平賀隆宗（17代）の宝篋印塔2基のみで墓地の西側にあります。平賀氏は毛利の家臣として関ヶ原の戦いで敗れ、20代元忠の時に毛利とともに長門へ移っていきました。平賀氏の墓地を見ることで、戦に明け暮れた武士の時代の栄華盛衰の歴史を知ることができました。ここから高台に行くと高屋堀と仙石庭園を展望した後に、仙石庭園の記念碑の前で写真撮影して昼食会場のお食事処「石庭」へ移動。



新年互礼会は福村実行委員長から新春の会の開催を述べ、赤木会長より年始のご挨拶、昨年度の活動に対し会員の皆さんのご協力に感謝のお言葉が有りました。今年は新たな活動として、社会福祉協議会から熟年大学の講座を依頼されており、皆さんのご協力をお願いしたいとお話がありました。

今回の昼食は船越さんのお手配で、豪華な？松花堂弁当とサービスコーヒー付きでした。食事をしながら大森さんから恒例の今年の干支の事や丑年にあった出来事をお話しして頂きました。その後は「郷土史クイズ」を実施、正解数のトップは蔵楽さんでした。また今年の抱負を國永さんと進藤さんに発表して頂きました。途中から仙石庭園の山名館長さんがみえ、この庭園が出来たきっかけや国内で唯一「庭石登録博物館」に認定されている庭園の見どころを詳しくご説明頂きました。

また山名館長さんは記念病院の創設者でもあり、ご高齢ながら今でも自分で重機を運転されて庭園造りをされているとのこと、素晴らしい

沢山のお話を聞くことが出来ました。食事の後は、皆で「一月一日」を合唱して、蔵楽さんの音頭で万歳三唱し互礼会を治めました。その後は、併設されている展示室で学芸員の方から庭園の石の種類、構造について詳しく説明を受けたのち駐車場で解散となりました。

くずし字を古典で学ぶ 第2回

浮田 一民

今回も松尾芭蕉の直筆短冊の「俳句」を使います。江戸時代は「俳句」とは呼ばないのですが、長くなるので「俳句」とします。

くずし字を始めた人が、まず戸惑うのが毛筆による流れるような文字です。前号でC・Dの第1字目が「婦」、第3字目が「池」のくずし字であると書きましたが、C・Dの文字が同じ文字に見えた人は「超優秀な人」です。1年も学べば卒業です。違う文字に見えた人は「正常な人」です。1年も学べば私と同程度になります。

文字を活字で覚えた私たちは、1文字を1字として見る習慣が身についています。

『なんのこっちゃ!!。1文字は1字じゃろうが。』と思いますよね。

でも、漢字を習った遠〜い、遠〜い！昔を思い返してみてください。漢字には「扁」と「旁」、「冠」と「脚」があった！ような？記憶がありませんか。漢字は、この扁、旁、冠、脚を多様に組み合わせた、いわば多数の文字の組み合わせなのです。

「蕪」と「蘇」をよく見てください。一見、違う字に見えますが、どちらも「卩」、「禾」、「魚」の組み合わせであり、字形は違いますが同じ字であることが分かります。

次の漢字を見てください。

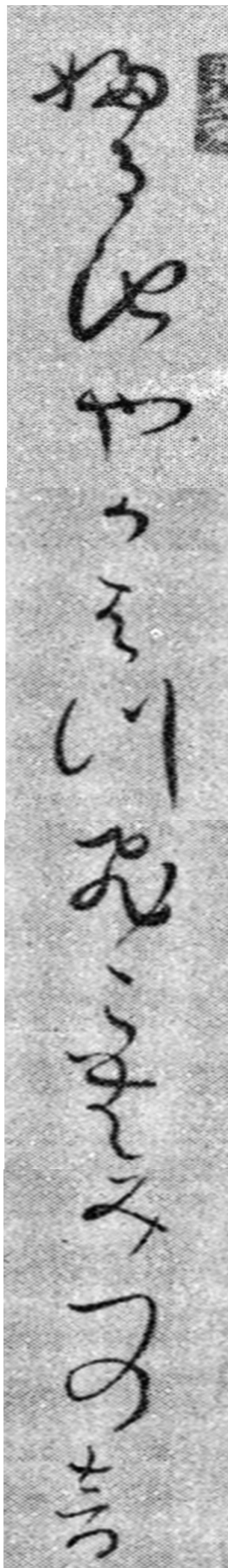
笨杏松

これは、全て「松」という文字です。先の「蘇」と「蕪」のように、「松」を分解してみると「木」と「公」の組み合わせであることが分かります。

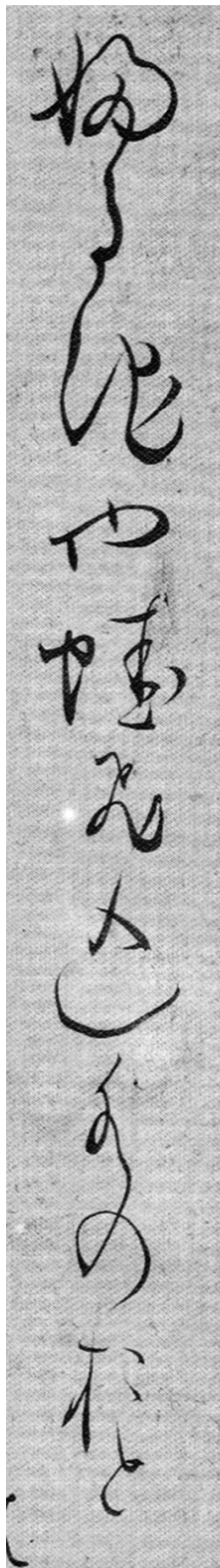
このように江戸時代の人には「扁」・「旁」・「冠」・「脚」を自由に組み合わせ使います。江戸時代は、現代と違って細かい文法などは問題にしません。また自由自在に文字を使います。句読点もありません。送り仮名に至っては天衣無縫です。でも、無茶苦茶ではありません。一定の決まり事のようなものはあります。

現代の常識を捨てて、江戸時代にタイムスリップしてください。

C



D



写真C・Dで **物** **物** の左側を見ると女扁に見えませんか。女扁に見えたらシメタものです。あとは知っている限りの女扁の文字を頭の中で探すのです。

こうして文字を分解して、文字を探っていくのが、くずし字を読むコツです。

でも、漢字はやはり難しいので、懐かしい小学1年生に戻って「ひらかな」から覚えて行きましょう。「ひらかな」は基本です。

写真C・Dで漢字をひらかな読みとして崩してあるのが **う** **そ** **い** **そ** **は** です。

う は、「可」をくずしたものです。読みは「か」です。

の の う り り

などとも書きます。

くずし字で厄介なのは、同じ字でも沢山の崩し方があることです。

そ は、「者」をくずしたものです。読みは「は」です。

者 者 ろ ろ ろ

などとも書きます。くずし字の「は」は、「はる」、「はな」などの名詞などの一部として使われ、助詞の場合は「ハ」が多用されます。

い は、見た通り「川」ですが、読み方は「つ」です。

川 川 い つ つ

などとも書き、現代の「つ」の原型です。

では、何故「川」を「つ」と読むのでしょうか。漢字には「漢音」と「呉音」があります。古代の「呉音」は「川」を「つ」と発音していたようです。「漢音」の「川（せん）」が日本に入ってくる以前に、「呉音」の「川（つ）」が入り、万葉かなとして使用されていたのです。後に「漢音」の「川（せん）」が「漢字」として残り、「呉音」の「川（つ）」は「ひらかな」として残ったのです。

そ は「無」をくずしたものです。読みは「む」です。

そ そ ろ ろ ろ


などとも書きます。

は は「於」をくずしたものです。読みは

「お」です。

於於おゆゆおお

などとも書きます。現代の「お」の元になった文字です。

最後に右の  の文字です。この文字が二文字に見えた人は天才です。しっかり勉強すれば、古文書博士も夢ではありません。

上記のように抜き出してみると、とても二文字には見えません。長年古文書を勉強している人でも読めないでしょう。

でも、このようにセンテンスにしてみれば、前後の文字の続き具合から一文字か二文字かを推測することができます。

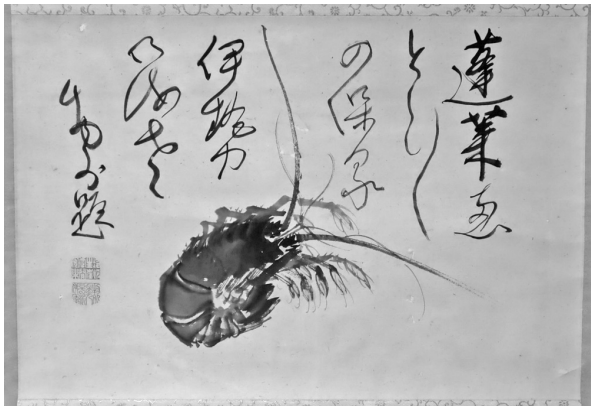


前後の文字や文章から不明の文字を推理することもくずし字を読むコツです。

教材に俳句を選んだのもこの理由です。俳句は五・七・五の十七文字です。五文字・七文字・五文字の語を数えながら、前後の文字を推理してください。

今回は、次の写真を題材にします。次回まで眺めてください。作者も誰か推理してみてください。

くずし字上達の近道は「毎日見る」ことです。毎日眺めて、目を慣らすことが上達の近道です。



安芸津・お旅所の絵馬 2

今田 幸博

■ 4. 源義経図(みなもとのよしつねず)



縦：98.4cm×横：159.0cm

源義経は、平安時代末期～鎌倉時代初期の武将で、鎌倉幕府初代将軍源頼朝の異母弟で、源平の戦いで活躍する。

画は、源平合戦の「屋島の戦い」の場面を描く、白馬に騎乗した義経の左側に弁慶が、黒馬に騎乗し弓を持ち海上に乗り入れるのは那須与一で、左上に扇を掲げた平家の船が小さく描かれています。また旗指物には、源氏の代表的な家紋である「笹竜胆（ささりんどう）」が描かれています。

明治33年（1900）庚子3月吉日に、河原勘次郎、岡市次郎、松田岩太郎、新開利一、林政吉、河原芳松が奉納。

■ 5. 狐狩り図(きつねかりず)



縦：87.0cm×横：130.8cm

画は、騎馬武者ら三人が、槍や弓などで狐狩りをしている場面を描いています。

明治36年（1903）癸卯3月吉日に、河原嘉伯、鹿島寅治、森下今之助、田中豊治が奉納。

■ 6. 檳榔子花萼額(びんろうじかがく)



縦：102.5cm×横：42.0cm

額内に、「合衆国産檳榔子花萼」と記されているところから、アメリカ合衆国産の檳榔子花萼の現物を額に貼付けたものです。

檳榔子は、ヤシ科の檳榔の種子を指します。葉脈の基部から箒(ほうき)状に分かれる花序(かじょ：枝上における花の配列状態のこと)を出し、上方に多数の雄花を下方に少数の雌花を付けます。

明治40年(1907)4月吉祥日に、向井保春が奉納。

■ 7. 日清戦争凱旋記念額(にしんせんそうがいせんきねんがく)



縦：94.5cm×横：177.5cm

日清戦争の勝利を祝して奉納されたもので、戦争の経緯が記されています。

明治28年(1895)7月上浣に、本市組が奉納。「一(夢)(散)人 長尾相知」が作製とあります。

関係者の方の話では、額の中央に三段の棚が設けられていますが、当初はここに銃が三丁掲げられていましたが、盗難に遭ったとの事です。
*日清戦争：明治27年(1894)7月～28年(1895)4月 朝鮮をめぐる日本と清国との戦争。(おわり)

閉城を間近に控えた広島城

西本 嘉住

■ 歴史

安土桃山時代、中国地方は毛利氏が大半を治めていた。天正19年(1591)に、毛利元就の孫・輝元により広島城が築城されて毛利氏の居城となり、政治経済の中心地となっていった。



しかし慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いで西軍の総大将として参戦し、敗戦した輝元は、戦後に防長2国(長州藩・現在の山口県)に減封された。

代わって尾張の国清州より福島正則が入封した。

しかし元和5年(1619)6月、洪水で損壊した広島城を無断改修した。武家諸法度違反の咎により、上信濃の国川中島藩に転封される。今も改修した石垣が一部残っている。

正則に代わって、紀州(和歌山)藩より、豊臣政権下で五奉行を務めた浅野長政の次男・浅野長晟(ながあきら)が、安芸一国備後八郡の安芸国主となった。

そして時は流れ、12代藩主浅野長勲(ながこと)で幕末を迎えることになる。

明治2年(1869)長勲は版籍奉還により広島藩知事に、そして明治4年(1871)廃藩置県により広島県となった。

明治17年(1884)に藩主・浅野家は侯爵となり、華族に列した。長勲は昭和12年(1937)96

歳で死去するまで長寿を保ち、「最後の殿様」ともてはやされたという。

■現在の広島城

5層5階、板張りの天守を持つ広島城。その美しさと大きさは壮大で、築城300年にわたって広島のシンボルとして愛され続けてきました。しかし、その美しさは昭和20年（1945）、原爆投下により失われてしまいました。

現在の天守は原爆投下以前に記録された資料をもとに復元されたものです。

昭和33年（1958）広島復興大博覧会の会場として多くの市民の支持により復元されたものが現在の天守です。博覧会後は博物館として開館し、今日に至ります。

今まで広島武家文化を紹介する博物館として親しまれてきましたが、コンクリートの劣化や設備の老朽化などの問題から、約68年の歴史に幕を閉じることになりました。

令和8年（2026）3月22日、閉城。

工期は9年、その前の準備期間を含めると10数年かかるそうです。閉城までのカウントダウンが始まっています。



『郷土史ニュース』発送作業にご協力ください

毎月の郷土史ニュース発送作業にご協力くださる方を募集しています。協力いただける方は、直接作業日にお越しください。

* 3月号発送日 3月7日(土) 9:00～

* 場所 市役所北館 市民協働センター

【郷土史研究会ニュース原稿募集のお知らせ】

郷土史研究会ニュースの原稿を募集しています。会員ならどなたでも紙面で発表できます。パソコンが苦手な方は手書きでOKです。ぜひ、ご寄稿ください。

【新規会員募集中】

活動が気になる方は、下記QRコードから覗いてみてください。



Instagram



HP



Facebook

グループ研究会ご案内

第304回 古文書研究会

と き 2月10日(火) 13:30～

ところ 市役所北館 市民協働センター

テキスト 国郡志御用ニ付下弾帳賀茂郡冠村⑦

第201回 石造物研究会

と き 2月24日(火) 13:30～

ところ 市役所北館 市民協働センター

内 容 第4回石造物探訪会 最終確認

第201回 四日市町並研究会

と き 2月11日(水) 13:30～

ところ 西条本町歴史広場 小島屋土蔵

内 容 昭和の西条町商店街の歴史

昔の道探訪会（旧山城探訪会）

今月の活動はお休みです

原爆資料保存研究会

と き 2月19日(木) 14:30～

ところ 市役所北館 市民協働センター

内 容 2026年度の活動などについて

2月の図書室開放

と き 2月20日(金) 13:00～15:00

ところ 高屋教育集会所

ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第618号

令和8年（2026）2月5日発行
編集・発行 東広島郷土史研究会

会 長 赤木達男

事務局長 國松宏史

会報編集 進藤真由美